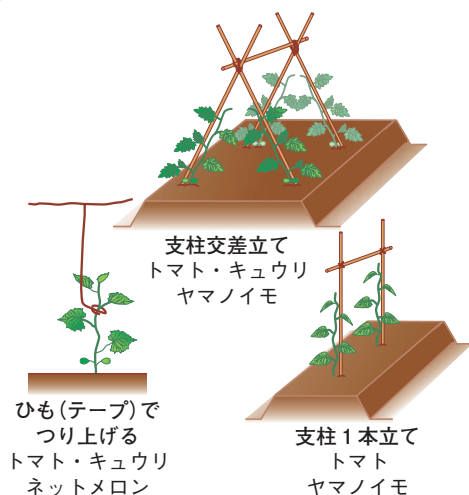


コラム 古老の経験から学ぼう! (最終回)

生育管理に欠かせない支柱への誘引と整枝 6



支柱の立て方

1 支柱の種類

野菜によっては、定植から収穫までの生育期間中に、風などの影響による倒伏を防ぐため、定植時に支柱を立てて、正常な姿に直立させます。支柱には、定植後、主にトンネル内の生育期間だけ立てる仮支柱と、収穫まで立てる本支柱があります。本支柱の立て方で、1本立ては日照が十分ですが風に弱く、交差立ては日照が十分当たり、風に対しても



2 整枝・誘引の目的

野菜作りは、自然に放置しておくとかやつるが繁茂してよい果実ができにくく、収量も低下します。そうした野菜では、葉・枝・つるの一部を剪定または誘引して、収量や品質の向上を図る必要があります。この操作を整枝といいます。

また誘引は、トマト・キュウリ・ピーマン、つる性のエンドウ・インゲンなどを支柱に結びつけて倒れないようにし、結果を促進させる生育管理の手段のひとつです。

3 各野菜の整枝・誘引の方法

トマト 通常は1本仕立てとし、普通の品種ではわき芽はすべて小さいうちに除き、収穫最終花房の上2葉を残して摘芯します。芯止まりの品種は、花房直下のわき芽を伸ばして主枝の代用にします。

キュウリ 通常は主枝1本仕立てですが、接ぎ木苗で草勢の強い場合は2本仕立てにすることもあります。

主枝の5節以下の側枝は早めに除去し、6節以上に出た側枝は1〜2節で摘芯します。主枝の果実は8節まで摘果し、特に生育の弱いものは10節まで摘果します。

ナス 1番花が着生する主枝と、その下から発生する側枝2本を残して3本仕立てとし、それ以外の側枝は早めに除去します。

ピーマン 第一分枝下の側枝を除く程度で、特別な整枝は不要です。

スイカ 本葉4〜5枚で摘芯し、3〜4本の子づるを残してほかは摘除します。着果節(約20節)以下から出る孫づるは除去し、着果節以上から出る孫づるは残します。果実の肥大期以降は、あまり強く整枝すると肥大が劣ったり、急性萎凋(いちょう)となる場合があります。

露地メロン 本葉4枚くらいで摘芯し、子づる3節目以下ものを早めに除き、4〜6節目から着果させます。着果枝は2葉、不着果枝は1葉残して摘芯します。ひ孫づるは伸び上がった新葉を摘む程度とします。

地方文化研究所 所長

はな たに たけし
花谷 武

大阪府立大学卒業。広島県庁定年退職。標高400mの畑で野菜、果物作り。温室でカトレヤ・シツプなどを栽培している。園芸新知識野菜号で「家庭菜園こぼれ話」の連載を54回に渡って執筆。長年の経験を生かした視点から、直売所出荷する方々にヒントをご紹介します。

